



# とっぱずれ



銚子東ロータリー・クラブ Weekly Bulletin NO. 2021



風力発電風車（銚子市三崎町）提供：宮内 勝利 会員（4）

第2021回 例会 平成25年9月17日

\*\*\*\*\*

点 鐘 … 宮内 博 会長  
 ローターソング … それでこそロータリー  
 来訪ロータリアン紹介  
     … 親睦活動・家族委員会  
 会 長 挨 拶 … 宮内 博 会長  
 御 祝 披 露 … 宮内 博 会長  
 誕 生 祝 … なし  
 結 婚 記 念 日 … なし  
 入 会 記 念 日 … なし

幹 事 報 告 … 釜谷 藤男 幹事

ニコニコBOX … 親睦活動・家族委員会

卓 話

「水晶の話」

第7分区ガバナー補佐 椎名 正良 氏

出 席 報 告 … 出席・プログラム委員会

来週のパログラム（平成25年9月24日）

\*\*\*\*\*

移動例会

「観月会」犬吠埼ホテル

受付 18:00 点鐘 18:30



ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを 実践し みんなに豊かな人生を

2013~2014 年度 RI 会長 ロンド. バートン

第2020回例会(平成25年9月10日)

## 会長挨拶

宮内 博

こんにちは。残暑も峠を越え、秋の気配が感じられる今日この頃ですが、一年のうちで一番活動的の時期であります。我クラブでは10/8に横浜方面への移動例会を予定しております。内容は三菱みなとみらい技術館を見学し、昼食は中華街でランチバイキングそして最後にキリンビール工場見学を予定しております。ぜひ皆さんには参加お願いします。

先週の動きとしましては職業奉仕セミナーが日航成田ホテルで開催されました。6.7.8.9分区のいわゆるDゾーンの会員が40名程集まり、職業奉仕の概論を講演頂き、その後5つのテーブルに別れ、ディスカッションをし、代表者が意見発表しました。

本日は決議23-34の制定の経緯についてお話しします。ロータリー活動の基本は良質な職業人であるロータリアンが毎週一回例会に出席してロータリーの哲学である奉仕の心を学び、それを通して親睦を深め、それによってさらに、奉仕の心を深め、充実させていくところにあります。

例会出席によって形成された奉仕の心はロータリアン個人がそれぞれの家庭、地域社会、国際社会で実践に移すこととなります。1910年代に入って、このようなクラブとしての実践を伴わないロータリーの理念に飽き足らず、クラブとしての金銭的奉仕や身体的奉仕の実践を積極的にすべきであるという動きが顕著になってきました。

実践派の先頭に立ったのは身体障害児の保護、教育に貢献してきたエドガー・アレンでした。彼は、1918年、オハイオ州エリリアロータリークラブに入会し、ロータリーは一丸となってこの事業にあたるべきであると主張して、1922年のロサンゼルス大会に身体障害児救済事業に関する決議案をトレード、クリーブランド各クラブとの共同提案として提出しました。

理事会はこれを受けて、この事業を奨励する決議22-17を採択したのです。これに力を得た実践派の動きはますます活発になり、「ロータリー創立の理念を守るべき」というシェルドンを中心とする理念派との対立が深まり、ロータリーは分裂の危機に瀕します。議論の中心は多額の金銭的支出を伴うクラブによる団体奉仕を、ロータリーの奉仕として認めるか否かでしたが、個人奉仕と団体奉仕、さらには金銭的奉仕の是非にまで話が広がったということです。

国際ロータリー理事会は、收拾がつかない状態になることを回避するために、両派の考え方を調和させるとともに、従来からあるいろいろな奉仕の考え方や行動を整理・調和させるための努力を繰り返します。最終的には、1923年セントルイスの国際大会で、テネシー州ナッシュビルロータリークラブのウイルR. メニアJr. を中心とする委員会によって起草・提案された決議23-34の採択によって、論争の終止符が打たれ、両派の対立は解消しました。

この決議文はロータリーの奉仕理念を確定した唯一のドキュメントとして現在もロータリアンのバイブル的な位置付けとして受け継がれています。

## 幹事報告

1. ガバナー事務所より
  - ・アクト第1回合同会議議事録

- ・第14回ロータリアン芸術祭作品出展のお願い
- ・国際奉仕委員会ニュースレター9月号 受領
2. 銚子市交通安全都市推進協議会より  
交通安全功労者表彰について (通知) 受領
3. 千葉県共同募金会より  
平成25年度「赤い羽根」へのご協力のごお願い 受領
4. 例会変更のお知らせ  
八日市場RCより  
9/17(火) 点鐘18:30「柿岡屋」  
夜間移動例会(観月会)の為 受領  
旭RCより  
9/27(金) 点鐘18:30「黄鶴」観月家族会の為 受領  
☆活動計画書受領 佐原香取RC  
☆週報受領 館山RC 佐原香取RC 八日市場RC

## 卓話

「感謝と喜び、そしてこれから～」

千葉科学大学留学生(米山奨学生) 呉 宏霞 氏

皆様、こんにちは。私は千葉科学大学から参りました呉宏霞と申します。いつも皆様方に大変お世話になっております。この機会をお借りして深く感謝を申し上げます。



私個人について簡単にお話させて頂きたいと思います。出身地は中国の内陸部にある四川省成都です。成都市の人口は約14百万人、中国で人口が4番目に多い都市です。豊かな四川平原の中であって古くから「天府の国」と呼ばれてきました。豊かな水源と肥沃な土地に恵まれた、一大穀倉地帯です。皆さんは、恐らく四川と言えば、「麻婆豆腐」などの四川料理を思いつくと思います。それと、四川省はパンダの故郷としても有名です。皆さん、機会があれば是非一度成都に行きたくて頂きたいと思います。宜しく願いいたします。

私の家族は5人います。両親と2人の姉、そして私です。実は私が10歳の時に母が亡くなりました。その時私より10歳年上の姉たちは既に四川省から離れて仕事をしていました。5人の生活が急に2人になってしまいました。その時本当に寂しかったのですが、父が優しく、毎日母の代わりに美味しいご飯を作ってくれたり、学校まで送迎してくれたり、経済的に厳しくてもたくさん可愛い洋服を買ってくれたりして、母が亡くなったことが私の成長に悪影響しないように、また別の子供を養まないように、母の分も一生懸命に努力してくれたので、2人の生活でもとても幸せでした。私は父の娘になったことを本当に良かったと思います。心から感謝しています。

そんなある日、私は学校から予定より早めに帰ってきた日がありました。家が真っ暗だったので、電気をつけたら、いつも樂觀的な父が泣いていたのです。その時父の寂しさと辛さに初めて気がつきました。その日から私も父が寂しくないように頑張りました。

18歳の時に父がやっと再婚できました。最初姉たちはとても反対でしたが、私は誰よりも父の寂しさがわかっていたので、何とか姉たちを説得しました。今の母は父にとって



も優しいので、日本で留学していても安心です。

次に、留学先に日本を選んだ理由を二つお話いたします。

一つ目は、北京で尊敬できる日本語の先生に出会った事です。彼は中国に留学した経験があり、中国語だけでなく中国人の習慣や文化等を深く理解していました。「人の噂など、本に書いてある事をそのまま信じてはだめ。自分でその国に行ってみると多くの人と出会って、初めてその国の事や国民の考え方が理解出来る」と。彼のこの言葉に、強い影響を与えられました。元々、日本の文化や歴史、人々の暮らし方にとっても興味があったので、自分の目で実際の日本を見てみたいという気持ちが非常に強くなりました。

二つ目は、日本の大学で専門知識を身につけたかったからです。中国では、東日本大震災が発生する前から、世界各国の大きな地震、火災、事故などのニュースが毎日のように報道されていて、災害発生の原因、災害拡大を防ぐ為の方策等に非常に興味を持っていました。その時、偶然見た千葉科学大学の危機管理学部の学部紹介内容に目を奪われ、この大学を志望することを決めました。

私は、折角日本に留学したので、日本の文化をもっと深く理解したいと思い、いろいろなアルバイトや校外活動を体験してきました。銚子の魚工場での魚の仕分け作業、焼肉店のホールスタッフ、居酒屋のキッチンスタッフ、漫画翻訳、中国語講師、様々なボランティア活動に参加しました。そういった経験から感じた日本の、そして日本人の特色は、皆で助け合うチームワークの精神と、他人の立場を考え、周囲の仲間と一緒に考えて「思いやり」の精神を多く持っていることだと思いました。これらの精神に、とても深く感銘しています。

また、それまでも、私の価値観に大きな影響を与えた出来事があります。それは、2008年5月に私の故郷である四川省で起こった大地震です。一瞬にして多くの人の命が奪われてしまった時に、日本の自衛隊や民間の人たちがわざわざ四川省におとずれ、被災者への援助作業等をしてくださいました。それが中国のテレビで映し出され、懸命に作業する姿勢に強く感動しました。いつか私も彼らのように外国人の為に貢献できる仕事をしたいという夢を持つようになりました。

その後、2009年に私は日本に留学に来たのですが、2011年に東日本大地震が発生しました。テレビを見ると、東北地方の大きな町が一瞬にして津波にのみこまれ、全て海のようにになってしまう光景が映し出されました。その時の私は、四川大震災の時の日本の皆さんの行動を思い出しました。私もご縁で日本にいるのですから、日本人たちの為に貢献をしたいと思いました。その気持ちで、少し遅くなりましたが去年9月に岩手県の復興ボランティア活動に参加し、がれきの片づけや草むしりなどを行いました。それは、とても充実した1週間でした。その時、アメリカやマレーシア、香港などから来た団体もありました。皆さん遠い外国からわざわざ来てボランティア活動をしていました。言葉はなかなか通じなかったのですが、皆目的は一緒なので、心の壁は全くなかったです。なにも話せなくても、笑顔で十分に気持ちが伝わったと思います。外国の見知らぬ人たちと交流する楽しさも知りました。

このボランティア活動の時に日中関係が悪化していて、その影響もあって、ある人が私にこのような質問をしてきました。「あなたは中国人でしょう？日本人が大嫌いでは

よう？なぜボランティアに来たの？目的はなんですか？日本は助けなんていらぬわ！」と。その時、「私は普通の人間です。ボランティアとして、国籍の違いなど一度も考えたことはありません。自分の故郷四川大地震の時も、日本の人たちがわざわざ来て、大変助かりました。私はどうしてもこの恩を返したかったのです。親切に国境はありません」と答えました。

しかし、私は生まれて初めて包丁で心を刺されたような非常に痛い、苦しい気持ちになりました。その夜はずっと泣いてしまい一睡も出来ませんでした。しかし、危機管理の観点から見れば、彼らも悪くないと思うようになりました。それは国際コミュニケーションの問題だと感じています。日本国内の人たちも日本のテレビや雑誌・新聞などの報道からしか中国の実情が見えないため、本当の中国を理解して下さっていないのではないかと。思います。もちろん、同じ事は、より大きな問題点として中国側にも存在します。そう考えたら、もっと日中のかけ橋になる為に積極的に活動すべきだと強く感じました。そして、日中友好の為にまずはコミュニケーションを良くすることからスタートしたいと考えるようになりました。例えば、今は、同じ価値観や同じ趣味など、求める結果が一緒の人たちとともに活動し、信頼関係を築き、国境の壁を無くしていきたいと強く思っています。そのため、月に1回の頻度で日中友好交流活動インベンドのボランティアをしています。このような民間コミュニケーションの大成功を見るたびに、日中の未来はとても明るいと感じます。

日本は一言で言うと、とても美しい国だと思います。もっとも印象に残った言葉は「ありがとう」と「空気が読める」です。日本人は、家族に対しても親友に対してもいつも「ありがとう」という言葉をきちんと伝えます。やはりどんな関係でも「ありがとう」という言葉を頂くと最高の気分になります。その言葉ひとつで、相手への思いやりを大切にしていることが分かります。「空気が読める」という言葉は外国人には通じないかもしれませんが、日本人の目配り、気配り、心配りは素晴らしいと思います。特にサービス業ではいつも何かをお願いをしたい時に、何も言わなくてもスタッフの方が気づいてくれます。

最近、特に感動したことは、私は五月に宮ノ下に面接に行った時に、箱根登山電鉄の中で乗客が私一人だったので、運転手さんが私のカッコ（格好）を見て、「就職活動ですか？今は日本人でも大変なのに、留学生として困難を恐れずに、素晴らしいです。必ず行きたいところに行けると信じています。応援しますよ。頑張ってくださいね」って言う声がお土産屋さんから聞こえてきました。「えっ、私？」と周囲を確認したら、間違いなく私しかいません。そこにいた女将さんに「どうして面接のことがわかるの？」って聞いたら、「リクルートスーツだから」と…。面接する前にこんなに優しい方々と出会えて、とても心強く思いました。おかげさまでその会社に合格する事が出来ました。

私は来日して早4年が経過しようとしています。今年からロータリー米山記念奨学会の奨学生として推薦され、ロータリーファミリーの一員となれた事を非常に誇りに思っております。カウンセラーの大木さんをはじめ、クラブの

皆様に大変お世話になっており、非常に感謝しております。

毎月多額の奨学金を頂くことによって、お陰様でアルバイトを減らすことができ、今年の春は就職活動に集中できたので、二つの会社から内定を頂く事が出来ました。大学やロータリークラブの皆様のご支援がなかったら、今の私は無かったと思います。特に、私のカウンセラーの大木さんには、いつもお父さんのような指導を頂き、学校では勉強できない日本人の考え方などいろいろ教えてくださいました。また、毎回例会に行くときにはわざわざ送迎して頂いています。

他のロータリアンの皆様にもいつも温かく接して頂いています。このようなアットホームなロータリーの一員になって、私は本当に幸せです。また、ロータリアンの皆様は社会的地位も高く、深い理念も持っておられます。そういう方々とお話をさせて頂いていると、自分の視野もどんどん大きく広がっていくように感じます。

旭クラブの例会で、会長篠崎さんがこのようにおっしゃいました。「呉さん、今は尖閣諸島の問題で中国にいる両親がとても心配していると思うけど、どんなことがあってもここにいる40人のお父さんが呉さんのことを守るから、両親に伝えて安心させてくださいね。ロータリークラブは呉さんの家です。いつでも帰って来てください。」この言葉を聞いて、私は感動のあまり、涙が止まりませんでした。ロータリアンと出会えたことは、私にとって、一生の財産です。

私はまだまだ未熟者ですが、初心を忘れず、皆様のご期待に恥じないよう、是非ロータリー米山記念奨学事業の活動に今後も積極的にいかかっわっていきたくと思っています。ロータリアンの奉仕の心を学びながら、日本や中国のみならず世界の他の国々でも貢献できる能力を身につけたいと考えております。皆様、今後とも末永くご指導を宜しくお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

——ニコニコ——

### 狩野勉君

本日の卓話は千葉科学大学危機管理学部危機管理システム学科4年生の呉宏霞さん（米山奨学生）です。宜しくお願いします。

### 第3回定例理事役員会

日時：平成25年9月10日（火）午前11:30～  
議題

- 1・例会変更の件 10月8日（火） 移動例会 承認
- 2・10月例会スケジュールの件 承認

- 3・合同スポーツ大会収支決算書の件 承認
- 4・ガバナー補佐訪問クラブ協議会の件 承認
- 5・ガバナー公式訪問クラブ協議会の件 承認
- 6・移動例会予算案の件 承認
- 7・パソコン購入の件 承認

### 10月例会スケジュール

- 第1例会 10月1日  
ガバナー公式訪問・クラブ協議会
- 第2例会 10月8日  
移動例会 企業訪問「キリン横浜ビアビレッジ」
- 第3例会 10月15日  
卓話「未定」  
米山奨学生 金 ユリ 氏  
地区米山奨学会委員会 委員 吉田 広行 氏
- 第4例会 10月22日  
卓話「未定」 滑川 藤彌 氏
- 第5例会 10月29日  
卓話「R情報」 平野 恭男 会員

### 前回の例会(9/10)報告

点 鐘	宮内 博 会長
出席報告	
会員総数	42名
出席者	23名
8月27日	
出席規定除外数	8名
出席率	60.53%
確定出席率	80.00%
来訪ロータリアン	なし
欠席者	15名
メークアップ	
宮内(博)君	(9/7職業奉仕セミナー)
網中君 藤崎君 長谷川君 平野君 石上君	
石毛君 石井君 狩野君 宮内(博)君	(9/10理事会)
スモールコインBOX	小計 ¥ 2,050-
	累計 ¥ 26,293-
ニコニコBOX	小計 ¥ 3,000-
	累計 ¥ 103,000-

銚子東ロータリー・クラブ 銚子市三軒町19番地の4 銚子商工会館内 TEL0479(23)0750 FAX0479(25)8789  
 メール [c-higashirc@tcs-net.ne.jp](mailto:c-higashirc@tcs-net.ne.jp) URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~rc>  
 例会日時及会場 毎週火曜日 12時30分点鐘 銚子商工会館5階大会議室  
 会長 宮内 博 副会長 石井 哲也 幹事 釜谷 藤男  
 R. I 第2790地区 クラブ広報・会報委員会 宮内 勝利・佐野 幸雄・宮内 宗一・杉浦 武  
 表紙題字 網中喜一郎初代会長

ほととぎす 銚子は国の とっばずれ 古帳庵

江戸小網町の豪商鈴木金兵衛夫婦（古帳庵 古帳女）が銚子に遊んだときに詠んだもので、この碑は圓福（円福）寺に現存する。